

## 熊野神社の石造宝篋印塔

石塔の種類は宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>\*1と呼ばれる型式のもので、一辺140cmを測る石組み基壇の上に建てられており、和歌山県指定文化財となっている。石塔は現状で地上高365cmを測る巨大なもので、和歌山県内の中世石塔では最大級の大きさの一例であるといえる。

宝篋印塔は基礎の下部が地中に埋没しているが、各部材はほぼ完存しているものである。

石材には結晶片岩<sup>けっしょうぺんがん</sup>という石を用いて各部材を製作したものであり、上から相輪<sup>そうりん</sup>、笠、塔身、基礎、台座の各部分が残る。

相輪と塔身はそれぞれ一石で彫刻されているが、笠と基礎、台座は部材を組み合わせたものである。

相輪は宝輪数が九輪あり、宝輪上下の請花<sup>うけぼな</sup>は八単位の単弁であるが、間弁をもつものである。

笠は現状では一石分が残るが不完全な状態である。下部が通常なら二段あるはずが一段しかなく、塔身上面にある柄<sup>ぼぞ</sup>が組み合う笠下面の柄穴<sup>ぼぞあな</sup>がみられないことから、笠の下部に柄穴のある一段分の部材が本来はあったはずであり、それが失われているものと考えられる。上部の段は六段であり、隅飾はわずかに外に開くもので、二弧を彫り込み、側面に輪郭を彫り残すものである。

塔身は横長のものであり、上面には柄が削り出されている。各側面には月輪<sup>がちりん</sup>が大きく陰刻され、内側に梵字が彫刻されている。梵字は金剛界四仏の阿闍如来<sup>こんごうかいしぶつ あしやくによらい</sup>、宝生如来<sup>ほうしようによらい</sup>、阿弥陀如来<sup>あみだによらい</sup>、不空成就如来<sup>ふくうじょうじゆによらい</sup>の種子<sup>しゆじ</sup>で、それぞれ「ウン」、「タラク」、「キリーク」、「アク」を深く葉研<sup>やげん</sup>彫りしたものである。

基礎は横長のもので、四面は素面である。二石の部材で組み合わされており、上部段が二段のもので、この二段が一石で形成され、その下に直方体の一石を組み合わせている。上部段の上面には塔身を受ける部分に2cmほど削り込みがみられる。基礎下部は地中に埋没しているが、各側面の現地表面からは約13cmの部分が2cm程度削り込まれており、台座の部材を組み合わせるための造作と考えられる。

台座は基礎下部の四面周囲に沿わせて部材を囲んで設置していたものとみられ、向かって左辺のものが原位置を保っている。他の部材は手前に並べられて残っており、組み合わせて台座を表現していたものである。台座は繰形座<sup>くりがたざ</sup>と呼ばれる型式のもので和歌山県内では数少ない例である。また、台座は通常では基礎を上面に乗せるものであるが、このような基礎の周囲を取り囲んで部材を設置した例は珍しい。

この石塔は「田村麻呂記念塔」と呼ばれ、当地に居住していた坂上田村麻呂<sup>※2</sup>が東北制定の任を受け、この地を離れるに当たってその戦勝を祈願してこの石塔を建てたとの伝説がある。また、村人がこの土地で3年間過ごした田村麻呂を追慕し、その武勲を祈念して建てたものであるとも伝えている。

この石塔は、石材に結晶片岩を用いて各部材を組み合わせたものである点に最大の特徴

がある。結晶片岩製の宝篋印塔は橋本市を中心に紀ノ川上流域に分布しており、その数は少ない。また、各部材が完存している例は、橋本市<sup>おみねじ</sup>小峯寺にある天授5年（1379）の銘がある宝篋印塔が唯一の例であり、熊野神社例は各部材がほぼ完存している点で貴重である。用いた石材は地元の結晶片岩であることから、製作に当たって石塔工人の出張製作と考えられる。また、各部材は他に類をみない特殊な構造がみられることから、注文製作によって作られた可能性が高いと言える。

紀年名などの銘文が無く、形状は独特のものであることから、詳細な年代推定は難しいが、鎌倉時代後期から南北朝期までの時期の範囲のものであると考えられる。

また、結晶片岩を用いた宝篋印塔としては最大規模のもので、和歌山県内の中世の宝篋印塔を全体的にみた場合でも海南市藤白峠と東牟婁郡那智勝浦町青岸渡寺にある大型の宝篋印塔に匹敵する、県内最大級の大きさであるといえる。

北野隆亮（2011）「県下最大級！熊野神社の石造宝篋印塔」

和歌山県立博物館「中世の村をあるく～紀美野町の歴史と文化～」P75～77 から引用（一部省略）

#### ※1

宝 篋 印 塔：塔の一種。方形の基礎の上に、方形の塔身をおき、相輪を立てる。笠石の四角に隅飾りの突起があるのが特色。主に石造で、まれに金銅製や木製がある。本来は宝篋印陀羅尼の経文を納めたが、後には供養塔・墓碑とされた。

#### ※2

坂上田村麻呂：平安初期の武将。桓武・平城・嵯峨の三天皇に仕え、征夷大將軍として蝦夷地平定に功を立てる。京都清水寺を建立。